

はる えちゅうがっこう せいと みな  
春江中学校の生徒の皆さんへ

# こうちょう おも 校長の念い

イラストは、次号までお待ちください。

れいわ ねん がつ にち だい こう  
令和5年4月11日 第1号

あいて たちば た かん おも こころ こうどう  
相手の立場に立ち、感じて、思いやりの心で行動しよう！

一昨々年から、毎月発行している「校長の念い」を、今年度も継続していきます。皆さんにどのような生徒に育ってほしいと私が考えているのかを、ぜひ知ってください。

1年生は、初めて目に触れるので、タイトルについて説明します。「おもい」という漢字は、「思い」や「想い」が浮かぶと思いますが、あえて学校で学ばない「念い」（常用漢字表外読み）を使いました。その理由は、「念」を使った言葉には、「信念」や「念願」、「正念場」など、「強い思い」を意味するものが多いからです。校長の「強い思い」という意味を込めて、「念い」と記すことにしました。

今年度、第1回目の「念い」は、「相手の立場に立ち、感じて、思いやりの心で行動しよう！」です。この「念い」、いわゆる「共感力」について、今年度の始業式や終業式で具体的な例を示しますので、一緒に取り組んでいきましょう。

この念いを考えた理由は、今年2月に内閣府が公表した「令和4年度青少年のインターネット利用環境実態調査」で、中学生が平日1日利用している時間が平均4時間37分だったことからです。学校に10時間、睡眠を8時間とすると、残りは6時間しかありません。そのうちの約75%を、人間ではなく、デジタル機器と向き合っているのです。

また、インターネットを利用している中学生の72.4%が、投稿やメッセージの交換をしています。デジタル機器を介したコミュニケーションは、「自分」中心になりがちです。

「いいね」とほめられれば素直に喜びますが、批判されると、過剰に反応してしまう傾向があります。

私は、顔と顔を合わせてのコミュニケーションの時間が、感情を学び、人間関係を築く手立てになる最も重要なことだと思っています。そこで、皆さんが、中学校生活で幸せと成功をつかむために必要なことは、「共感力」だと考えたのです。

例えば、満員のバスに、重そうな荷物を持ったおばあさんが乗車しました。まず、おばあさんの存在に気づいてください。スマホに夢中になって気づかないのでは、「共感力」は育ちません。顔と顔を合わせてください。それから、おばあさんの立場になって感じてください。

「しんどいだろう」と感じて、「かわいそうだ」と思えるようになってください。そうなれば、思いやりの心で席を譲ることができるはずです。「共感力」は、学習にも役立ちます。今年度末には、皆さんが「共感力」が身に付いたと言えることを期待しています。